

## レジリアンス・プロジェクト平成 21 年度研究計画 (Research Plan for FY2009)

1. 氏名/所属: 石本雄大/総合地球環境学研究所

2. 具体的な研究課題 (今年度)

- 1) 世帯構成員のネットワークにおけるレジリアンス
- 2) 世帯主のネットワークにおけるレジリアンス
- 3) 世帯間ネットワークにおけるレジリアンス

3. 具体的な研究内容 (今年度)

サイト A (1カ村)、サイト B (2カ村)、サイト C (3カ村) において、各村 8 世帯ずつの調査世帯を設け、以下の項目について調査を行う

- ・調査世帯の構成員と交流を持つ者とその背景
- ・モノ・現金の動き
- ・行為 (サービス) のやり取り

4. 今年度末までの達成予定 (上記の課題毎に、何をどの程度明らかにできるか)

- 1) 同一世帯の構成員が各々、発生した問題にいかに対処するかを明らかにする。  
特に、世帯主が男性である場合、世帯主とその妻による対応の違いを検討する。
- 2) 男性世帯主と女性世帯主 (母子世帯主) とが持つ人間関係には違いが見られる。  
そこで、彼らのネットワークを用いての対処行動にはどういった違いが現れるか分析を行う。
- 3) 1) の調査を元に世帯構成員個人の行動がいかに対処行動を形作るか分析を行う。

5. 今年度現地調査予定

1-1) 時期: 2009 年 4 月 7 日~8 月末

1-2) 目的: 農作物収穫後のネットワークに関する調査

1-3) 内容/準備状況: 農作物収穫後の人・行為・モノ・現金の動きを把握することで、  
収入を得、農閑期になった状態についての分析を行う。

2-1) 時期: 2009 年 11 月中旬~2 月中旬

2-2) 目的: 端境期のネットワークに関する調査

2-3) 内容/準備状況: 端境期の人・行為・モノ・現金の動きを把握することで、  
食料不足に陥った世帯のネットワークを活用しての対処に関する分析を行う。

6. 次年度以降の計画予定概要

(平成 22 年度)

- 1) 収穫後に 1 ヶ月ほど
- 2) 端境期に 1 ヶ月ほど

(平成 23 年度)

- 1) 未定
- 2) 未定

7. 成果発表計画

発表予定学術誌 (学術誌名): 未定

発表予定学会 (学会名・時期): 日本アフリカ学会 (平成 22 年 5 月)、  
日本地域国際開発学会 (平成 22 年 11 月)

ワークショップ等: ルサカ WS (2009 年 8 月末)

8. その他 (何かあれば): 特にありません